

上部消化管内視鏡検査説明書・同意書

【検査の目的】

上部消化管(食道・胃・十二指腸)にできる病気（潰瘍・ポリープ・癌・炎症など）を発見し、適切な治療法を選択するための検査です。

【検査内容】

内視鏡を口や鼻から挿入し、胃に空気を入れて膨らませながら観察します。検査は5～10分程度で終了しますが、観察や処置に少し時間がかかる可能性もあります。

検査の前処置として、氷状にした喉の麻酔薬を口に含んで頂き、喉の麻酔をします。

ベッドに寝て頂き、鎮静剤の注射をしてから検査を行います。

【鎮静剤の使用】

検査に対する不安や緊張、痛みを和らげるために検査時に鎮静剤を使用します。個人差がありますが、しばらく眠気やふらつき感が続くことがあります。可能な限り、公共交通機関か送迎をご利用下さい。検査終了後はベッドでしばらく休んで頂いた後、麻酔よりしっかり覚醒し気分不良がなければ帰宅して頂きます。

【検査中の処置】

検査中、必要に応じて処置を行うことがあります。

1. 生検、細胞診：組織検査の為粘膜の一部を採取します。
2. 止血処置：出血などがみられた場合、止血の治療を行います。
3. 色素散布：粘膜の性状の変化をより詳しく観察するために人体に安全な色素を噴霧するなど

【検査に伴う偶発症・合併症】

1. 穿孔（胃に孔があく事）、出血
2. 検査後急性胃炎
3. スコープによる粘膜損傷
4. 検査時に使用する薬剤の副作用など

一般的に発生率は0.012%と報告されています。偶発症が発生した場合には、止血処置、輸血、外科的手術など緊急処置が必要になる場合があります。

※ 脳梗塞や心臓病治療の為血液をさらさらにするお薬を服用している方、歯科治療、局所麻酔などでアレルギー症状が出た事のある方は確認させて頂きますので検査前にお申し出ください。

私は、上部消化管内視鏡検査の目的について医師より説明を受け、内容・検査中の処置、鎮静剤の使用、検査に伴う偶発症・合併症について上記記載事項を読み、理解しましたので上部消化管内視鏡検査を受ける事に同意します。

年 月 日

説明担当医

立会看護師

本人署名

㊞

代諾者

㊞ (続柄)

(自筆の場合、押印は省略可)

(自筆の場合、押印は省略可)